

領受品金電関

元助役に顧問料月50万円

敦賀の建設会社 受注報酬も

関西電力役員らに多額の金品を渡していた高浜町の元助役森山栄治氏（故人）が、敦賀市の建設会社で顧問を務め、毎月50万円を受け取っていたことが3日、関係者への取材で分かった。森山氏はこの会社が原発関連工事を受注できるよう動いていたとみられ、受注実績に応じ成功報酬も受け取っていたという。

建設会社「吉田開発」から約3億円が流れたことが既に判明。敦賀市の建設会社からの資金も関電役員らへの金品提供の原資になった可能性があり、原発マネーの新たな還流ルートが浮かんだ格好だ。

この建設会社は共同通信の取材に対し「関電の調査に影響が及ぶ恐れが否定できないことなどから、取材対応を見合わせる」と文書で回答した。森山氏は高浜原発3、4号機を誘致する際、反対勢力を抑え込むなど「地域対策」に尽力。関電は森山氏を手厚くもてなし、工事情報などを提供するように促した。

関係者によると、敦賀市の建設会社は約20年前、森山氏が関電の工事発注に影響力を持っているとの情報をつかみ、幹部が森山氏に接触。顧問就任を要請し、森山氏は快諾した。森山氏の働き掛けで原発関連工事を受注した場

合、月50万円の報酬とは別に、受注額の数%も支払っていたという。国土交通省近畿地方整備局に提出した工事経歴書によると、この建設会社は2011年以降、関電が所有する福井県内の高浜、大飯、美浜の3原発に関連する工事を少なくとも計147億円分受注して

いる。森山氏は高浜町の収入役などを経て、77～87年に助役を務めた。関電役員らの金品受領問題は、関電が設置した第三者委員会（委員長・但木敬一元検事総長）が調査中。この建設会社を含めた全容の解明を目指すとしている。

森山氏は高浜原発3、4号機を誘致する際、反対勢力を抑え込むなど「地域対策」に尽力。関電は森山氏を手厚くもてなし、工事情報などを提供するように促した。